

授業概要

- ①中学校社会科と高等学校公民科における新学習指導要領の内容とその本質を理解する。
- ②戦後社会科の学習指導要領の変遷を説明し、新学習指導要領の位置づけを理解する。
- ③公民教育の理念を新教育基本法や学習指導要領等を使用して理解を深める。
- ④実際の学校現場での公民の授業作りの方法と授業方法論をマスターさせ、模擬授業も行う。
- ⑤ ①～④を通して、学生に公民教科の面白さを実感してもらい、学生に公民的資質を育てることがどういうことか理解させるとともに「自立と共生」を実感として体得させる。

授業計画

第1回	オリエンテーション、社会科とは何か、戦後日本の社会科成立についての解説。
第2回	戦後社会科の学習指導要領の変遷と新学習指導要領の解説。
第3回	公民教育の理念と本質、公民科教師に求められる力。
第4回	社会科・公民科授業の理論：社会認識について、問題解決学習について
第5回	政治的な内容のポイントと授業方法① 実践編：模擬授業
第6回	政治的な内容のポイントと授業方法② 理論編：解説
第7回	経済的な内容のポイントと授業方法① 実践編：模擬授業
第8回	経済的な内容のポイントと授業方法② 理論編：解説
第9回	国際関係的な内容のポイントと授業方法① 実践編：模擬授業
第10回	国際関係的な内容のポイントと授業方法② 理論編：解説
第11回	倫理的な内容のポイントと授業方法（心理）① 実践編：模擬授業
第12回	倫理的な内容のポイントと授業方法（心理）② 理論編：解説
第13回	倫理的な内容のポイントと授業方法（思想）① 実践編：模擬授業
第14回	倫理的な内容のポイントと授業方法（思想）② 理論編：解説
第15回	国際教育、人権教育、環境教育等の内容と方法の解説
第16回	筆記試験：各講義の内容を理解し、その内容をまとめ、そのうえで自らの意見を論じられるかの試験になります。

到達目標

- ①戦後社会科の学習指導要領の変遷を説明し、新学習指導要領の位置づけを理解する。
- ②社会科、公民教育の理念と本質の理解を深める
- ③模擬授業等を通して、公民の授業作りのスキルを身に付ける。
- ④ ①～③を通して、社会科、公民科の教科内容に興味・関心を持つとともに自ら教材研究のための勉強に励む姿勢を身につける。

履修上の注意

- ☆将来、公民科の教師になることを目指している学生の履修が望ましい。
- ①毎時間、遅刻、中抜け、早退等をせずに90分間の授業に出席すること。
 - ②遅刻は、30分以内まで。いかなる理由があっても90分の授業の内、30分以上の出席しない場合は欠席扱いとする。
 - ③真面目に受講すること。
 - ④授業時での課題や作業、模擬授業等に積極的に取り組むこと。

予習復習

講義後のレポート提出を行うこと。
 模擬授業に際して、事前の教材研究（例えば、単元に関する文献・資料を読むことなど）をしっかりと行うこと。

評価方法

筆記試験で60%、
 授業時での課題や作業、模擬授業等の取り組み、受講態度で40%→合計100%で評価する。

テキスト

参考書・参考資料：二谷貞夫・和井田清司編『中等社会科の理論と実践』（学文社）、中学校、高等学校学習指導要領、
 講義ごとにプリント、資料を配付する。その都度、参考文献を紹介する